

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



中国地方の最高峰である大山（鳥取県大山町）

年頭のご挨拶



近畿中国森林管理局長
本村 裕三

新年明けましておめでとうございます。皆様方には輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、3月に東日本大震災が発生いたしました。その後、9月に台風12号による災害が発生するなど、森林・林業・木材産業に対する災害が多発し、多くの方々が被災されました。

ここに、亡くなられた方々に対しご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々の一日も早い復興を心よりお見舞い申し上げます。

これらの災害に対しては、被災地の復旧・復興に向けて、森林・林業・木材産業の分野で様々な対策が講じられたところであり、近畿中国森林管理局といたしましても、台風12号災害等についての災害復旧のための治山事業の推進はもとより、災害に強い森林づくりや木材の安定供給体制の整備を通じた森林・林業の再生、地域社会の再生などを着実に進めていくこととしております。

一方、昨年は、国連が定めた「国際森林年」であり、また、平成21年12月に策定された「森林・林業再生プラン」

の具体化を開始した節目の年でありました。

当局におきましても、関係機関と連携しつつ、国際森林年記念行事などを積極的に行ったほか、准フォレスター等の人材育成をはじめ、路網整備・搬出間伐の推進、森林共同施業団地の設定の推進、木材利用の拡大などに積極的に取り組んできたところであります。

そして、本年は、「森林・林業再生プラン」の実施2年目として、昨年の取組みを更に進め、現場において施策の効果を実感できる状況にしていくことが重要であると認識しております。

このような認識の下、当局におきましては、府県・市町村と一体となって、国有林の組織・技術力・資源を有効活用し、様々な課題に主体的に取り組み、地域における森林・林業の再生に全力で取り組んでいくこととしております。

今後とも、民有林関係の皆様方との一層の連携を図りつつ、森林・林業・木材産業の再生・振興や地域社会の活性化に向けて努力してまいりますので、皆様方のより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の本年のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



写真左：「森林・林業再生プラン」の取組、准フォレスターを養成するための研修を行っている様子



写真右：台風12号により発生した、山地災害を復旧するために調査を行っている様子

地域ニュース

林業専用道モデル路線の設定

【近畿中国森林管理局 森林整備課】森林・林業再生プランにおいては、森林の整備や木材生産の効率化に必要な路網整備を推進していくこととしています。

なかでも森林施業のために利用する恒久的施設である「林業専用道」の開設については、民有林に先立ち国有林が先導的な役割を果たすことが求められており、全国の国有林に林業専用道モデル路線が設定されることとなっています。



地図上で頭に路線を描くメンバー

現地で計画路線を選定している様子

近畿中国森林管理局においては、岡山県久米郡美咲町、高ノ峰国有林に林業専用道モデル路線を設定することとし、10月26～27日、壁村委員（森林林業再生プラン路網・作業システム検討委員会委員）のアドバイスを受けながら、現地検討会を開催し、設計路線の検討と現地調査を行いました。

今回の検討会により、「林業専用道」と「森林作業道」の効率的な開設を基本とした路線設定を行い、平成24年度に開設工事を実施し、国有林のみならず各府県等民有林行政担当者や、工事を請負う事業者等の研修に活用していく予定です。

関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

ヤシャゲンゴロウの生態を学ぶ

【福井森林管理署】10月22日、福井県南条郡南越前町において、「ヤシャゲンゴロウの生態を学ぶ夜叉ヶ池を訪ねる」という企画を開催しました。

これは、当署の実施している希少野生生物保護管理対策へのさらなる理解を深めるため、ヤシャゲンゴロウの生態や生息環境である夜叉ヶ池について学習するというものです。

当日はあいにくの雨模様となり、夜叉ヶ池登山は中

止しましたが、一般参加者10名は、町内の飼育施設において、ヤシャゲンゴロウを育てる会の奥野会長からのヤシャゲンゴロウの生態の神秘に関する話に耳を傾け、夜叉ヶ池パトロール員の会の川崎会長による夜叉ヶ池の自然環境の解説に熱心に聞き入っていました。



ヤシャゲンゴロウ

ヤシャゲンゴロウ (*Acilius kishii* NAKANE, 1963) は、福井県南条郡南越前町の夜叉ヶ池だけに生息する固有種です。ヤシャゲンゴロウは、環境庁（現：環境省）より「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1993）に基づき「国内希少動植物種」に指定（1996）されました。

標本等を見ながらヤシャゲンゴロウの生態について学ぶ参加者



関連ホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hukui/>

「企業の森」で自然観察会（株式会社日本触媒）

【兵庫森林管理署】10月29日、兵庫県宍粟市にある赤西国有林の「企業の森」において、契約締結相手方の「株式会社日本触媒」が、歩道整備と自然観察会を行い、社員とその家族43名、当署から6名の職員が参加しました。

開会式では、中島署長から森林の役割を説明する中、全員にブナのみを配るなど秋の森の恵みを具体的に紹介するとともに、楽しく自然を満喫しましょうと挨拶しました。



参加者全員で記念撮影

防護用シカネット設置の様子

完成した遊歩道を散策する参加者

午前中は、今年春から作り始めていた遊歩道を完成させ、参加者全員でこの遊歩道を散策し、木の実や落ち葉を手に取りながら、秋の空気を感じながら楽しくハイキングを楽しんでいました。

昼食は、森林管理署職員の手作りのキノコ汁と弁当でお腹をいっぱいにし、午後からは、子供たちがミズナラを記念植樹したほか、国際森林年のテーマである「森を歩く」と題して、赤西国有林内の「先代杉」と名付けられた大杉やスギの母樹林、間伐箇所など、大木の森を散策しました。「先代杉」では、子供たちが幹周りを手をつなぎ、大木の大きさを肌で実感していました。

参加者は、秋色に染まりつつある赤西国有林の新たな一面に触れることができ、有意義な一日となりました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hiyogo/>

ボランティア団体とクリーン作戦を展開

【広島北部森林管理署】10月13日、広島県三次市布野町の国有林で、道路沿いに不法に投棄された空き缶や粗大ゴミなどを撤去するクリーン作戦を実施しました。

このクリーン作戦は、山あいの林道の脇にゴミを投げ捨てる不法投棄が後を絶たないことから国有林を管理する当署と三次市が共催で行ったものです。

撤去作業には、国有林はじめ地元で森を守る活動を続けている地域のボランティア団体びほく森のサポーターズ(代表 田丸猛氏)の会員の方も参加し、合わせて13人が林道脇の崖の下に散乱するゴミを拾いました。

道路から約10mほど下った斜面には、空き缶や使い古したタイヤ4本や洗濯機など様々なゴミが捨てられていて、参加者たちは「投げ捨てるのは簡単だが、



不法投棄されたゴミを撤去するボランティア団体



投棄された洗濯機を林道まで運び出す職員

それを拾い上げるのには大きな労力と時間がかかる」などと言いながら、ゴミを斜面の上まで運び上げていました。

1時間あまりで2トトラック1台分のゴミを撤去し、市内の「三次環境クリーンセンター」に運搬し処理しました。

当署は、国有林の巡視を強化し、関係団体と連携して不法投棄撲滅に向け引き続き取り組んでいきます。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/hirosimahokubu/>

大山森林生態系保護地域で自然観察会の開催

【鳥取森林管理署】11月3日、鳥取県大山町等に位置する大山国有林において、鳥取森林管理署が主催して大山森林生態系保護地域保全管理協力員による、「大山森林生態系保護地域の自然観察会」が行われました。



大山をバックに記念撮影

遊歩道を歩きながら植物、野鳥を観察する参加者

一般からの募集を含む19名が参加、ようやく紅葉が始まった大山の森を散策しました。

一行は大山情報館横の駐車場で開会式を行った後、大神山神社から元谷コースを辿り大山の歴史の説明を聞いたり、「管理協力員」によるツキヨタケの見分け方、先般の洪水で地下水脈がかわり、涸れた神社の名水の説明等を聞きながら元谷堰堤に到着。

参加者からは「鳥取管理署の造った堰堤があるから夏の豪雨でもこの程度の被害で済んだんだな。」と感想が聞かれました。

昼食後下山し、県道近くの国有林に移動、現在枯損が危ぶまれている大山松並木のクローンから育てた、二代目大山マツの苗木の植樹体験を行い解散しました。

鳥取市内から参加した山田良恵さんは「大自然を満喫しました。また、地域に詳しい説明の方がおられ助かりました、ゆったりと楽しい観察会でした、来年も是非参加したい。」と話されていました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/tottori/>

こどもちゃれんじ教室を開催

【三重森林管理署】三重県伊賀市にある^{やきお}焼尾国有林をフィールドとした、遊々の森の協定を締結している伊賀市教育委員会（主催）が、「こどもちゃれんじ教室」を開催しました。（共催：三重森林管理署）

当初は遊々の森「いきいき学びの森」において、間伐体験等実施予定でしたが、当日はあいにくの雨模様となったため、場所を阿山公民館へ変更して行いました。

「こどもちゃれんじ教室」は、年間10回開催され、地域の自然を感じることや体験活動を通じて異年齢交流を深めるために実施されています。

当日は小学1～6年生までの児童24名が参加しました。1年生が10名と低学年中心の構成でしたが、昨年も参加した上級生もおり、下級生を指導しながら、一緒にいろいろな体験活動を楽しんでいました。

特に、ドングリの種まきでは、使用する竹筒に熱心に絵を書いたり、種まきを行う時には、ミミズを探しドングリと一緒に竹筒の中に入れ、ミミズが土を耕してくれるので、ドングリの生長がよくなると喜んでいました。

オリジナルキーホルダー作りをする小学生



竹筒に熱心に絵を描いている小学生

参加した児童からは、「ドングリから芽が出たところを見てみたい。」や「自分だけのキーホルダーなので大切に使いたい。」等の感想が聞かれ楽しい一時を過ごしました。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/>

一丈野治山の森で記念植樹を実施

【滋賀森林管理署】10月5日、滋賀県大津市にある^{いち}一丈野国有林において、地元の正^{しょうや}休保育園児と先生（総勢20名）を招き、同国有林の治山事業（植林の大切さ）について、下流域に住む地元の子どもたちにも楽しく学んでもらうことを目的に「一丈野治山の森の記念植樹」を開催しました。



園児と職員全員で記念撮影



職員が手伝いタマミズキの記念植樹をする園児

一丈野国有林は、持統天皇（694年）以降、歴史的な造営用材や薪炭材として長期にわたり乱伐した結果、荒廃が進み、はげ山と化しました。明治時代から現在に至るまで、溪間工事や山腹工事が随所に施されており、それらの施設は今なお、山地災害の防止や環境保全などに役立っています。

当日園児たちは、一丈野国有林の「※たみみずきの道」を散策した後、はげ山の国有林が緑豊かな森林に回復した過程のパネル写真と当時の面影が残る箇所を遠望し、木を植えることの大切さの話を聞いた後、タマミズキやサクラ、コブシの記念植樹を行いました。

その後、葉っぱをこすって「こすりだし図鑑」作りを体験し、森林の中での楽しいひとときを過ごしました。

園から「森の大事な役目を知ることができて楽しかった、また参加したい」との感想が寄せられました。

※ 車いすやベビーカーを利用して森林内の散策ができるように、ユニバーサルデザインの手法を取り入れて作られた遊歩道。

関連ホームページ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/siga/>

ご愛読者の皆様方、本年もどうぞ宜しくお願いします。